

令和 8 年 3 月 23 日～24 日 参加者 青木義男・有田力・古谷幸男・友田秀明以上 4 名

視察先 23 日 ポートレースまるがめ

丸亀市は面積 111.83K m² 人口 107.482 人の香川県では高松市に次ぐ規模である。

ポートレースまるがめの施行者は丸亀市が約 12 分の 11 で残りを香川県中部ポートレース事業組合

(三豊市・琴平町・まんのう町・宇多津町) である。設置は昭和 27 年 4 月 17 日 (S27 年 10 月 31 日初開

催) 敷地面積 133.457 m² 水面面積 86.544 m² スタンド床面積 22.815 m² 収容人員 4.000 人

駐車場 2.603 台の施設規模である。昭和 35 年度には売上が全国最下位の約 5 億円になり、43 年度 1 万人

収容のスタンドをオープンさせ 61 年度には業界初となる「ポートピアまるがめ」をオープンさせ売上向上

に努めてきたが、平成 16 年度には売上約 246 億円で単独赤字を計上した。その後全国 5 番目のナイターレ

ースを平成 21 年 4 月 21 日にスタートさせ 25 年度には売上額 785 億円で全国 1 位を獲得し、令和 6 年度

の売上額は 1.557 億円である。会派視察としては初のナイターレース場の視察であるが、全国 24 場中

モーニングレース 5 場・通常レース 12 場・ナイターレース 7 場で 1 位から 7 位までは全てナイターレース

場である。ポートレースの開催場の歩留まりは約 10%であるが、ナイターは 8 基ある照明設備の改修費が、

R4・5 年に LED に交換で 21 億円と電気料金の安い深夜電力を蓄電池に溜めて使用する経費節減等色々改

善や努力をしても経費がかさむので 10%を切る利益になっているが、それを払拭する売上がある為毎

年 70 億円近い金額を丸亀市へ繰り出している。モーニングレースから通常レース、そしてミッドナイトレ

ースまで朝 8:30～夜の 10 時ころまで全国 24 場のどこかが開催しているポートレースは、かつてのレー

ス場ごとの売上から進化してポートレース界全体で売上増に取り組んでいる。但しいつまでも今の売上が

続く保障はあるわけではないので、施行者もポートレースからの繰入を当てにした予算編成をしては

大変な事態になり得ることを想定した取り組みが必要だと感じた視察でした。

報告者
石谷幸男

令和8年3月24日 10:00~12:00

宇多津町 道の駅 恋人の聖地 うたづ臨海公園

宇多津町議会水本副議長、宇多津谷川町長の歓迎のごあいさつをい

ただき予定通り 10:00 開始

ごあいさつの中、普通の道の駅とは少々異なるとの話であった。

恋人の聖地 うたづ臨海公園の概要について説明を受けた。

・230億円かけて宇多津塩田土地改良区画整理事業の際、公園を整備された。

・うたづ海ホテルの指定管理料は約1,600万円~1,900万円（R8年は2,500万円）

・宇多津臨海公園維持管理費は、植栽維持、除草、トイレ・遊具点検等で約2,000万円を指定管理料で契約

・うたづ海ホテルの就業従事者数

事務職4名（内正規1 臨時3）

塩田作業員4名（内正規1 臨時3）

概要については付属添付の資料のとおりである。

主な質疑として、指定管理者 一般財団法人宇多津振興財団が令和8年3月31日で終了し、公募で(株)NCPサプライを代表企業とする運営共同事業体に変更となっていることについて問うと、理由は民間活力とノウハウを取り入れたいとのことで、従事者はそのまま継

続とのこと。何か少し疑問も残ったが一般財団法人宇多津振興財団は他に事業もあるとのことであった。

現地に議長が来られ職員とともに案内され説明を受けた。

海岸でのロケーションはなかなかの景色であり、復元塩田にて生産される「入浜式の塩」(年間約1.5~2トン生産)もなかなかの絶品であった。

恋人の聖地とされる場所には来訪者によるカギ(誓いの鍵)も多くかけられていた。子供の遊び場もあり遊具も備えられおり、保育園児たちの遠足場所としても利用されていた。隣地は民間の結婚式場跡地で大きな空地となっているため、何かに活用できないか検討しているとのことであった。隣接の水族館は民設民営でまあまあの集客らしい。

所感

我市の親水公園が30年以上前からさまざまな構想があったにも関わらず現在の状況をみると周南市並びに県の取り組みの方針はどうなっているのか、また重要港湾の位置づけとしての港湾整備事業の戦略構想と併せ親水公園の一体的な整備はどこまで現実味があるのかなどをあらためて考えさせられた。また親水公園に地域版道の駅という特徴を持たせるのも一つの考え方として成り立つのかとも思った。

道の駅 恋人の聖地 うたづ臨海公園の概要

「道の駅」の定義

「道の駅」は、安全で快適に道路を利用するために道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、「地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場」を基本コンセプトになっている。

県内に道の駅施設は現在 18 施設（令和 7 年 12 月現在）…国土交通省 HP より

道の駅の指定 1998 年 4 月（平成 10 年 4 月）

うたづ臨海公園の概要（数量）

- ・敷地面積 … 56,076 m²（1号、2号緑地含む）
- ・うたづ海ホテル… 1 棟
 - 本館 建物構造：鉄筋コンクリート造 2 階建
 - 敷地面積：2,778.02 m²
 - 延床面積：737.27 m²
 - 建築面積：726.96 m²
 - 施設内容：情報提供・休憩施設、観光・交流施設、トイレ、授乳室、事務室、作業室、収納庫 等
- 屋外 施設内容：復元塩田（ポンプ小屋含む）、釜屋（濃縮台含む）
- ・トイレ… 2 棟
- ・休憩所（シェルター）… 5 棟
- ・水族館… 1 棟
- ・芝生広場… 1 箇所
- ・遊具広場… 1 箇所
- ・遊具… 16 基
- ・駐車場… 58 台（普通自動車 54 台、身障者用 3 台、大型用 1 台）
- ・自転車置き場… 25 台

【設置目的（うたづ海ホテル）】

町の産業資料の継承及び宇多津臨海公園利用者の利便の向上に資するため。

道の駅
平成 10 年 設置

D 産品出荷者数と主力産品

塩、塩あめ、にがり、その他塩加工品や町内事業者等による物品等を販売。

主力産品は復元塩田にて生産される「入浜式の塩」
(年間約 1.5～2 トン生産)

E 計画から建設設営、開業までの流れ

町政施行 90 周年記念事業の一環として「うたづ海ホテル」の前身にあたる「宇多津町産業資料館」及び「復元塩田」が導入された。
(昭和 63 年 10 月に完成)

平成 21 年度に「うたづ海ホテル」として改装を完了し、新たに物販・飲食等の集客機能をもたせることにより、観光の拠点となっている。

F 町との関わり方

【うたづ海ホテル】

観光振興や地域活性化の連携を図っている。イベントにも積極的に連携し、町のにぎわいづくりを推進している。

【宇多津臨海公園】

月 1 回、指定管理者との打ち合わせを実施。(適切な公園維持管理ができていないか進捗確認。)

G 売り上げ額

物品販売額：年 900～1,000 万円程度。

その他収支決算状況は、以下のとおり。

【収入】

指定管理料…約 4,000 万円

その他手数料収入・物販収入・体験料収入等…約 1,200 万円

合計…約 5,200 万円

【支出】

人件費…約 1,200 万円 (会計年度任用職員 5 名程度)

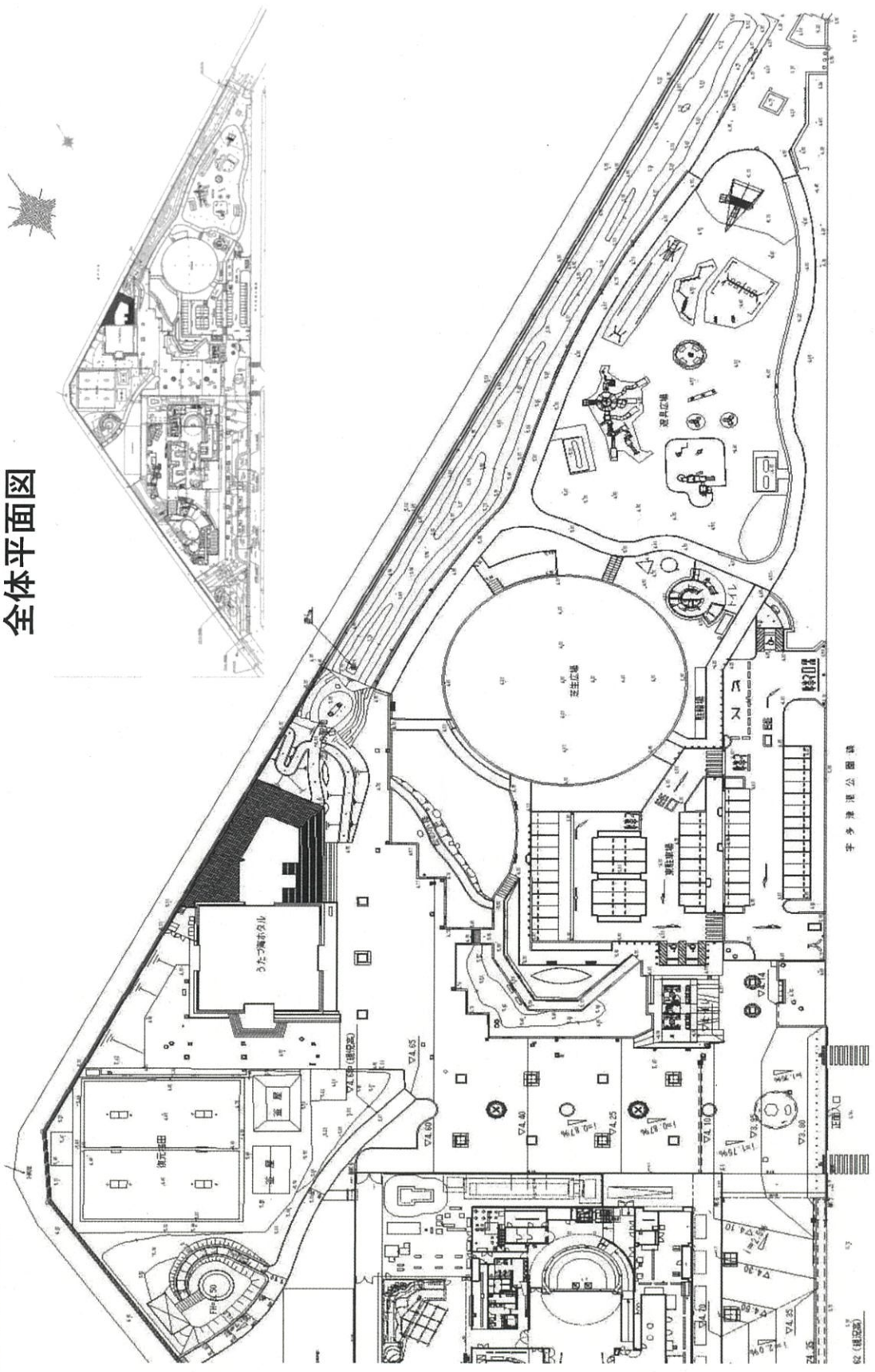
需用費…約 1,000 万円 (光熱水費、修繕費が大半を占める)

その他役務費、委託料、公課費等…約 3,000 万円

合計…約 5,200 万円

※町から事務職員、塩田作業員を派遣。人件費は町が負担。

拡大平面図



全体平面図

